

1 所在地 秋田県山本郡琴丘町鹿渡字盤若台

2 調査期間 一九九八年（平成11）二月、一九九九年五月）

一〇月、二〇〇〇年四月

3
発掘機関
秋田県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 杉渕 馨・利部 修・宇田川 浩一

5 遺跡の種類
村落・墓域・生産地

6 遺跡の年代 縄文時代・平安時代・中世・近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は旧八郎潟の東岸約1kmの湖成段丘上に位置する。南方3km

には中世初期の大製鉄遺跡である琴丘町堂の下遺跡がある。国道七号線琴丘能代道路建設事業に伴い、一一三〇〇m²を調査した。

三〇〇²mを調査した。

検出遺構は縄文時代の住

居跡・土坑、一〇世紀の掘

立柱建物跡・竪穴住居跡・

製鉄炉、一二世紀後半～一

三世紀前半の方形周溝・火葬墓・井戸・鍛冶炉などである。遺物は縄文時代中期末の土器、平安時代の須恵器・土師器・製鉄関連遺物
中世の中国・国産陶磁器、木器類などがある。

本簡は、中世の井戸SE九三二から二点出土した。井戸の掘形は長径二・七m短径一・九m深さ七・六mである。○・六mほどを挿鉢状に、その後垂直に掘り込む。底面に曲物がすえられていた。底面から二mまでは木器・木材が大量に廃棄され、上から三・二mで馬の中手骨が出土した。龍泉窯系の青磁碗が一点出土した。

木簡は、大量に廃棄された箸や板材と共に出土した。井戸の廃絶は、出土した青磁碗から一三世紀前半で、木簡も同時期と考える。

イロハニホヘトチカスリマフ

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

カニヒキツクリメ

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

アビラシクミヤコノヲ

イロハニホヘトチカスリマフ

「

97

(2)



(120)×(24)×6 081

(1)は折敷の転用。下辺を刃物で階段状にカットする。

(2)は上端と右側面は原形をとどめ、下端と左側面は折れている。

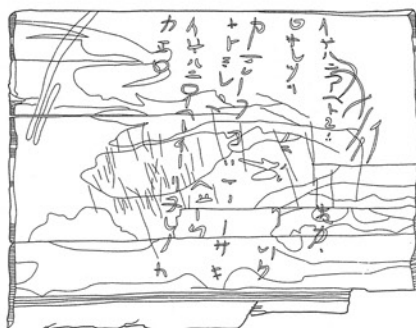
9 関係文献

秋田県教育委員会

『盤若台遺跡』(秋田県文化財調査報告書第三二

九集、二〇〇一年)

(宇田川浩一)



(1)



(2)

九州歴史資料館編集

『大宰府政庁跡』の刊行

大宰府は、「大君の遠の朝廷」と謳われる、古代律令制下の外交と交易、西海道諸国支配の重要拠点である。その中枢部で、菅原道真が「都府楼」と詠んだ政庁の発掘調査報告書が刊行された。

大宰府の発掘調査は一九六八年より永年にわたり、その成果は膨大である。本書は、そうした発掘成果と、最新の成果をあわせて集大成したものである。

遺構や出土遺物の豊富な写真を駆使している。また木簡の再読も行っている。A4判・上製・函入・外箱付・七二二頁(原色口絵八頁・折込九丁・付図二丁)。

なお、発売は吉川弘文館から。頒価は二八〇〇円(税別)。